未来世代礼拝 小学生（高）礼拝説教9月②

「良心を強くしよう」

み言

「第一の神様の前に、（人間には）第二の神様としての良心があるのです。」

　今日は「良心」についてのお話をします。漢字を見ると「良い心」です。統一原理（『原理講論』）では、「本心」とも言います。

人間は心と体からできています。そして、心の働きが体を動かします。

　例えば、お父さん、お母さんが仕事で疲れている姿を見て、何かお手伝いをしたいと思います。「お手伝いをしたい」と思った心が体を動かして、ごはんの準備を手伝ったり、お風呂の掃除をしたりしようとするのです。

　心が体を動かすとき、良い心で体を動かしているのであれば、皆が幸せになるはずです。ところが、世の中を見ると、悪いできごともたくさん起きています。

本来、神様がつくられた世界は、悪いものがありませんでした。人間の心も良い心・美しい心しかありませんでした。

　これまでの礼拝で、一番始めの人間（人間始祖）であるアダムとエバが成長する途中で過ちを犯して堕落した、というお話を聞いたと思います。この時、エバを誘惑して神様の願いとは違った方向に連れていこうとしたのが天使長ルーシェルであり、後にサタンとなりました。

堕落によって人間はサタンとつながりを持つようになり、サタンは人間の心を悪い方向に引っ張ることができるようになったのです。

　サタンは人間を神様の方向に行かせたくありません。だから、私たちの中にある、面倒くさい、自分が楽しければ良い、どうせうまくいかないという考えや思いを大きくさせて悪い行動をさせようとします。結果的に、その人が苦しんだり、不幸になったりする道を行かせようとするのです。この、サタンを中心とした悪い心を「邪心」と言います。

例えば、家に皆さんの好きなお菓子があったとします。でも、そのお菓子は、兄弟の人数分ありません。自分が食べてしまえば、兄弟の誰かが食べられなくなってしまいます。

皆さんは、こんな時どうしますか？

邪心が強ければ、「食べてしまってもいいや」と思うでしょう。しかし、良心が強くなれば、自分は食べずに兄弟のためにとっておいてあげたい！と思ったり、兄弟と分けて食べようとしたりするかもしれません。

でも、邪心に負けて食べてしまった場合、その一瞬だけは「お菓子を食べられた！」という思いで満足するかもしれませんが、あとで兄弟の誰かがお菓子を食べられずに泣いている姿を見たら、「分け合って食べればよかったな」とか「自分が食べないで、兄弟にあげればよかったな」という気持ちになるかもしれません。

悪い心「邪心」は、「良心」「本心」を分からなくしてしまいました。

例えば、きれいな水の中をのぞいてみれば、その水は透き通って水の中にあるものがよく見えると思います。しかし、汚れた濁った水であれば、中に何があるのか見ることができません。私たちの心の中に神様に通じる良心があったとしても、悪い思いを持てば、神様の願いや愛も分からなくなってしまうのです。

　良心はどんな悪い人にもあります。そして、人間が悪いことをしようとしたときに、必死で止めようとします。さっきのお話でいうと、お菓子を一人で食べようと思ったときに、「兄弟のためにとっておいて、分けて食べれば自分もみんなも幸せになれるよ！」と良心は言います。しかし、邪心が大きいとその声も聞こえなくなってしまいます。

では、どうしたらその悪い心に負けないで、神様の喜ばれる行動ができるようになるのでしょうか？　それは私たちの中にある良心に気付き、その力を強くすることです。

良心は、神様のことを学ぶためにみ言を勉強したり、誰かのためにお祈りをしたり、周りの人のために生きることでどんどん強くなります。そして、私たちがサタンによって悪の方向に引っ張られそうになった時、神様のほうに戻そうとしてくれるのです。

良心は私だけを担当する私の第二の神様なのです。

今日の礼拝では、私たちの心に、神様の願いの通りに生きようとする「良心」「本心」と、サタンを中心とした悪い心「邪心」があることを学びました。邪心に負けないよう、毎日、神様に感謝し、ために生きる生活をしながら良心の力を強くしていきましょう！